

記入例

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時： 令和〇 年 〇 月 〇 日

調査者氏名： 小牧 太郎

所有者・建築会社・設計者 誰でも構いません。調査を行った方の氏名を記入ください。

I) 建築物の概要

1. 建築物の所有者： 小牧 太郎

登記に所有者とされている方、固定資産税の納税通知者に記載されている方を記入してください。

2. 建築物所在地： 小牧市〇〇一丁目〇〇番地

3. 階数： 2階建て

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

木造住宅である ※ツーバイフォー・混構造でない

○か×を記入して下さい。
いずれかに×がある場合は
除却補助の対象外です。

チェック欄

○

昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した

○

Ⅲ) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

※相当する箇所の写真を添付してください。

(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

Ⅲにチェックをした場合は、該当箇所の写真を調査票に添付してください。

建物全体	全体又は一部に崩壊がある ①	
	全体又は一部に傾斜や変形がある ②	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている ③	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である ④	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる ⑤	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある ⑥	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる ⑦	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる ⑧	○

Ⅲ) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目の例

全体又は一部に崩壊がある ① ・屋根や外壁の一部が脱落している ・柱が折れている ・外壁に亀裂や穴が生じている
全体又は一部に変形がある・建物全体が傾いている ② ・屋根がうねっている ・軒先が垂れている ・柱や壁が傾いている ・床に起伏がある
地盤沈下が生じている ③ ・土地の沈下や建物の沈下が見られる
基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である ④ ・基礎が玉石、石積み、ブロック、レンガ等である
基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる ⑤ ・基礎がひび割れている ・基礎の一部が欠けている ・鉄筋の露出や鉄筋のさび汁が見られる
老朽・腐朽 柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある ⑥ ・部材が食害されている(特に床下や小屋裏等の暗くて多湿な箇所を確認) ・白蟻の巣がある ・部材に虫がわいている
柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる ⑦ ・部材が湿気等により腐っている ・部材にカビが生えている
柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる ⑧ ・部材に穴がある ・部材が欠けている ・部材に亀裂が見られる

Ⅲにチェックをした場合は、容易な診断は終了となり、以下の記入は不要です。

Ⅳ) 壁の割合 ※Ⅲに当てはまらない場合に記入して下さい。

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	面積(m ²)	イ／ロ	必要値	ハ／ニ
X	27.5	75	0.37	0.2	1.85
Y	20	75	0.27	0.2	1.35

XY方向いずれかで、1.0以上ある場合は、補助対象となりません。
1.0未満の場合は、倒壊の危険性があるため、除却の補助対象です。

【解説】

※「わが家の耐震診断と補強方法」(監修 国土交通省 編集 財団法人日本建築防災協会 社会法人日本建築士連合会)の壁の割合の計算に基づく計算方法です。

① 壁の長さ(幅)の計測

住宅内外の壁の長さを計測してください(2階建ての場合は1階のみ)。

壁を太線で記入し、それぞれの壁の長さをメートル単位としてそのわきに書き込んでください。窓・ふすま・障子・ドアなどの開口部分は記入不要です。

※壁の長さが910mmの場合でも1メートルとして記入して下さい。

② 壁の長さの計算(イ)

建物のX(横)方向、Y(縦)方向ごとに、壁の長さの合計を計算してください。その2つの値のうち小さい方の値を、イ欄“壁の長さ(m)”に記入してください。

③ 面積の計算(ロ)

平面図から、建物の面積をm²単位として求め、ロ欄“面積”に記入してください。

④ 単位面積あたりの壁の長さ(ハ)

ハ欄“イ／ロ”では“単位面積あたりの壁の長さ”を求めます。イ欄“壁の長さ”を、ロ欄“面積”で割った値を記入してください。

【ハ欄“イ／ロ” = イ欄“壁の長さ” ÷ ロ欄“面積”】

⑤ 必要長さ(ニ)

ハ欄“イ／ロ”では“単位面積あたりの壁の長さ”を求めます。イ欄“壁の長さ”を、ロ欄“面積”で割った値を記入してください。

【ハ欄“イ／ロ” = イ欄“壁の長さ” ÷ ロ欄“面積”】

	平屋	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・スレート葺)	0.2	0.52
重い屋根 (桟瓦葺、土葺瓦屋根、かや葺)	0.27	0.59

⑥ 壁の割合(ホ)

ホ欄“ハ／ニ”では“壁の割合”を求めます。ハ欄“イ／ロ”を、ニ欄“必要壁長さ”で割った値を記入してください。

【ホ欄“壁の割合” = ハ欄“イ／ロ” ÷ ニ欄“必要壁長さ”】

※結果が1.0未満の場合、除却工事の補助の対象となりますので、市役所建築課にご相談ください。